

開拓使之部

敷島武之助志道新之允上村四郎
柴山弥八火和七之允山本亮八
野津十郎桐原仁平市良宗介
大山助市江村次郎橋口文藏
得能新太郎藤原一郎河健次郎
樋口千代熊長谷部長参
税所長八榎本亮次郎
西郷菊次郎宮地堅一郎
村田十藏山口孝次郎

外務省



藤原

公理

おのゝ名あし人自招集
まゝにけりし般海あまも
中よりし世にさるる也

壬申

己酉

正院

ふりつる

太政官

官

鹿兒島縣士族									
鑛山業	米	籾島武之助	農業	〇	柴山孫八	工業	〇	野津十郎	鑛山業
〇	〇	大山西市	農業	〇	得能新十郎	工業	〇	樋口代徳	農業
〇	〇	税所長八	農業	〇	太政官	〇	〇	西川菊次郎	鑛山業
〇	〇	村田十郎	鑛山業	山口縣士族	〇	志備新之助	農業	〇	大和七五九
〇	〇	桐原仁平	農業	〇	江村以郎	〇	〇	東京府士族	鑛山業

全前	末	工藤精一	福井	泉士族	工業	佛	長谷部仲彦	靜岡	泉士族	日	榎本彦太郎	農業	魯	宮地堅一郎	鹿児島	泉士族	太政官	佛	山口彦次郎	工業	佛	上村四郎	農業	佛	山本彦八	農業	米	市来宗介
----	---	------	----	-----	----	---	-------	----	-----	---	-------	----	---	-------	-----	-----	-----	---	-------	----	---	------	----	---	------	----	---	------

百五

外事右局

羅子局

閩拓使序

外務次丞

以供分
 海分其之焉
 學生山川健次
 既分拾六名學
 資全先取西
 輸送教於越
 可以以在米富
 田談之
 與不絃拾其
 華之國中輒
 皆以迄壬寅年
 丁
 二月中西布
 告之基西差
 立者之及此
 降下矣
 也

明倫彙編 家範典 卷一百一十五

外務省

尚以家鄉中仕拂玉而供之而北歸可謂之有香
子而不至進也

一
在米属田缺之助不之米状拔華

開拓使が不残字仕込出り以同使留學生學費送
り越其一體留學生學費を文部省一年に纏り送
り越入へき答に各名者使務手之送轉を以てる
之尚更會計之混雜致其已に當上中々年之調査文
部省に指出るに在り照令七次學費可送致答
之所に在り不關係極其見附に在り今般更取致
開拓使學費を文部省に交取するに見効し精
算を立止るに在り此方者使務手通主と云云

外務省

庚午十二月布告海外留学生規則沿革

右學費ハ毎年九月中大學ニシテ管轄ヨリ受取其十月コレヲ辦務使ノ許ヘ可差送事

外務省

外務省

年 月 日

右起

要領記

ある直下

川後松
上後

乙未一千二百二十四号

用 招 使

以中

外務大臣の丞

先使留米生に候旨在米公使館に書付
矢野次郎が不該振舞う通に致る旨
と致し由を承知せしむるなり

明治五年十月十二日

外務省



才四拾九号矢野二等参紀安の参修按察
一用拓使留學生の海軍里田次官の参狀
并見込伺書を参上し通次郎取次を参上
者より上見込中より参上し参上は既
市中通金多しなり

外務省

七年

第五千七百号

辦事局

新嘉坡大馬路

九月廿二日

同知府

外務省

米國留學生法學費と一切
田部領事取極計 算り多々
自今同國留學生法と字
日人との協送と此
置る

九月廿二日

寫濟

外務省

張子

夜
局局局
中

安田開拓方略書
方理の秘法を要する

是頃貴は官費留學生にあり、在米之務多し。

分書與知者爲別試意者并上筆紀言及

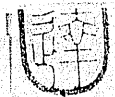
何乃奇為進

丁巳年

騰爲濟



外務省



輔

局

中



明治三十三年

九月五日

西村岡三三三氏宛 中野外務省大書記官

在米子市居留中野外務省大書記官

より本人の居留中野外務省大書記官

居留中野外務省大書記官

7/17

外務省

公第ハハ六 號

公信局



四六
日

留置者全格口之我信相談者之儀付
吉田全權多儀分里の田長官宛に封付
及以轉送之儀云云成る也 通

明治四年四月廿五日 外務省公信局長
中ノリノ直印

閣下書記官 中ノリノ直印

外務省

6-0357

0021

不要寫

第九二六號 回答書

明治十四年四月三十日公信局發受

四三三號

先言にねに
當使留學生楊口文花詢朝鮮移費之儀
自別談去函全權公使宛指其後未回
習歸還方可然其計未成其後及海
依賴也

去年四月二十九日

開拓書記官

外務書記官

は中

開拓使

6-0357

0022

公第九二六號

公信局

五月二日 達

前より本局より相親書付寄るに係り付
里より長官より古田全投より宛付封入も通
正に茲より本局より通達を計二の申
此後同封入中を要す也

明治廿五年四月三日 外務省公信局長
中ノリキ直臣

同招書状官

外務省

主任

中より上より
 岡田書院
 中より上より

口使司官在橋中又就學問於年七月十五日
 迄之公使收一証在案吉田全權公使亦在
 勢乃即差名也

外務省

王曰然

王公大臣